

平成29年全国優良経営体 表彰関係業務委託事業 結果報告書



一般社団法人全国農業会議所
national chamber of Agriculture

事業実施内容

I. 表彰式の開催について

①開催概要

②受賞者の経営内容紹介資料等の作成・配布

II. 受賞事例の普及について

①表彰式での審査講評及び取組概要報告

②優良経営体事例集の作成

③全国農業新聞への受賞事例掲載

④全国農業経営者研究大会における受賞者事例発表

⑤受賞者の講師派遣・紹介

⑥全国農業会議所ホームページにおける受賞事例の普及

I . 表彰式の開催について

①開催概要

＝「農林水産大臣賞」受賞者表彰式の開催＝

「第20回全国農業担い手サミットinこうち」の開催にあわせ、以下のとおり表彰式を開催した。

<概要>

「第20回全国農業担い手サミットinこうち」の全体会で農林水産大臣賞の表彰式を執り行った。
今年度も皇太子同妃殿下ご臨席のもと、表彰状の授与を実施。全国優良経営体表彰審査委員会の盛田清秀委員長より、評価ポイントの報告を行った。



◆日時

平成29年10月24日(火)12時45分～

◆会場

高知県高知市「県立春野総合運動公園体育館」

◆参加者

1,671名(農業者、農業関係者等)

◆次第

- 1 歓迎アトラクション
- 2 開会のことば
- 3 国歌斉唱
- 4 主催者あいさつ
- 5 皇太子殿下のおことば
- 6 来賓祝辞
- 7 平成29年度全国優良経営体表彰・農林水産大臣賞表彰式
- 8 審査講評
- 9 担い手メッセージ
- 10 パネルトーク
- 11 サミット宣言
- 12 次期開催県引継式
- 13 閉会あいさつ
- 14 閉会のことば

【表彰状授与者】農林水産副大臣 磯崎 陽輔 氏

【受賞者】

●経営改善部門

株式会社アグリたきもと(富山県入善町)

アグリード株式会社(岐阜県本巣市)

ネットワーク大津株式会社(熊本県大津町)

●生産技術革新部門

有限会社吉川農園(熊本県合志市)

●6次産業化部門

デリシャスファーム株式会社(宮城県大崎市)

こと京都株式会社(京都府京都市)

●販売革新部門

有限会社見元園芸(高知県高知市)

有限会社小磯製茶(鹿児島県南九州市)

【審査講評者】全国優良経営体表彰審査委員会 委員長 盛田 清秀 氏

①開催概要

＝「平成29年度全国優良経営体表彰式」の開催＝

「第20回全国農業担い手サミットinこうち」の開催にあわせ、以下のとおり表彰を開催した。

<概要>

「第20回全国農業担い手サミットinこうち」の開催にあわせ、「平成29年度全国優良経営体表彰式」を開催した。

当表彰式では、農林水産大臣賞を除く、農林水産省経営局長賞及び全国担い手育成総合支援協議会会長賞の表彰状授与と取組概要発表を行った。



◆日時

平成29年10月24日(火)9時00分～

◆会場

岐阜県岐阜市「高知市春野文化ホール・ピアステージ」

◆参加者

111名(受賞者、受賞関係者等)

◆次第

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 来賓祝辞
- 4 賞状授与
 - 農林水産省経営局長賞
 - 全国担い手育成総合支援協議会会長賞
- 5 審査講評
- 6 記念撮影
- 7 取組概要発表

- | | |
|-----------|---------------------|
| ●経営改善部門 | 株式会社鈴生(静岡県静岡市) |
| ●生産技術革新部門 | 舩田 愛 氏(栃木県栃木市) |
| | (※台風の影響により当日欠席) |
| ●6次産業化部門 | 農事組合法人香川ランチ(宮崎県川南町) |
| ●販売革新部門 | 西出 宏 氏(石川県能登町) |

【表彰式授与者】農林水産省経営局長 大澤 誠 氏
全国担い手育成総合支援協議会会長 二田 孝治 氏

【受賞者】農林水産省経営局長賞 計10経営体
全国担い手育成総合支援協議会会長賞 計16経営体

②受賞者の経営内容紹介資料等の作成・配布

<取組内容紹介資料、受賞者一覧表の作成>

(1) 農林水産大臣賞について

全国農業担い手サミットで配布した「第20回全国農業担い手サミットinこうち」のプログラム資料に受賞者一覧及び農林水産大臣賞受賞者の経営概要を掲載した。

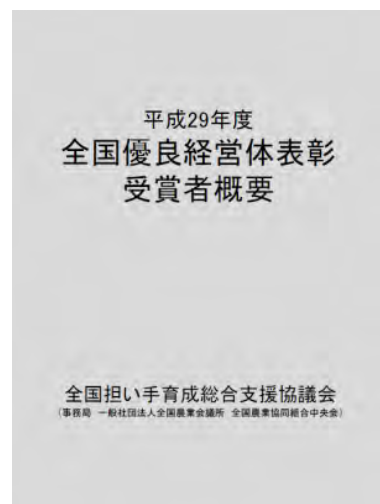
(2) 農林水産省経営局長賞、全国担い手育成総合支援協議会会長賞

「平成29年度全国優良経営体表彰式」において、受賞者の取組概要の普及に向けて、「経営改善部門」「生産革新部門」「6次産業化部門」「販売革新部門」において「農林水産大臣賞」「農林水産省経営局長賞」「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を受賞した経営体の取組概要をまとめた「平成29年度全国優良経営体表彰受賞者概要」を作成し、資料として配布した。

なお、同資料は、後述する「Ⅱ. 優良事例普及について」の⑥で作成したホームページにダウンロードデータを掲載し、電子データでの提供も行った。

【配布資料】

- 次第
- 参加者名簿
- 平成29年度全国優良経営体表彰受賞者概要
(受賞者一覧含む)



Ⅱ．受賞事例の普及について

①表彰式での審査講評及び取組概要報告

<内容>

◆審査講評

農林水産大臣賞受賞者の審査講評については、「第20回全国農業担い手サミットinこうち」の全体会で表彰状授与の後、また、農林水産省経営局省賞及び全国担い手育成総合支援協議会会長賞受賞者の審査講評については、「平成29年度全国優良経営体表彰式」において、全国優良経営体表彰審査委員会委員長が評価ポイントの報告を実施した。



【審査講評(抜粋)】(全国優良経営体表彰審査委員会 盛田 清秀 委員長)

・経営改善部門では、富山県の(株)アグリきたもと、岐阜県のアグリード(株)、熊本県のネットワーク大津(株)が農林水産大臣賞を受賞されました。アグリきたもとは31歳の女性が代表を務める100ha規模の大型水田経営で、アグリードは4人の基幹労働力で100haを経営する大型水田経営、ネットワーク大津は大豆・麦を中心に500haを耕作する集落連携型大規模経営法人です。これらの経営は、地域農業の担い手として、農地を守り、国際化に対応した効率的な経営展開を目指すという共通の特徴があります。

生産技術革新部門では、熊本県の(有)吉川農園が大臣賞に選ばれました。大葉栽培が中心の経営で、画像処理による選別作業の自動化機械をメーカーと共同で開発したことが評価されました。

6次産業化部門では、宮城県のデリシャスファーム(株)と京都府のこと京都(株)が大臣賞を受賞されました。デリシャスファームは特徴あるトマトを用いた多種類の加工品開発やカフェの設置が、こと京都では九条ネギのブランド化と生産者の組織化、積極的な加工品開発が高く評価されました。

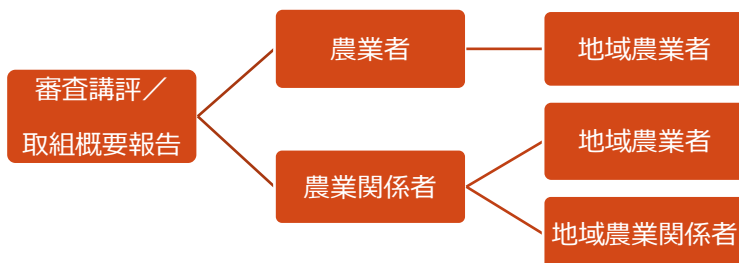
販売革新部門では、地元高知県の(有)見元園芸と、鹿児島県の(有)小磯製茶が大臣賞を受賞されました。見元園芸は自社開発の花き品種の苗を全国各地の生産者に供給し販売しています。また小磯製茶は茶の有機栽培に取組み、地元の生産者と共同でてん茶加工を行っています。見元園芸と小磯製茶はともに輸出の拡大にも取り組んでいます。

近年、世界の食料需給が逼迫するなかで、食料安全保障体制の揺るぎない構築、日本農業の強みを生かした持続的な農業の確立と世界への食文化発信という方向性を今年度の大臣賞受賞事例は示しています。農業担い手サミットに参加された皆様が、ご自分の経営あるいは地域農業をどのように発展させていくか、今回の表彰事例は多くのことを示唆しているように思います。

◆取組概要報告

「平成29年度全国優良経営体表彰式」において、各部門を代表して、農林水産省経営局長賞受賞者(各1名)による取組概要報告を実施した。農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に役立つ、受賞者経営の特徴、これまでの経営改善に向けた取り組み及びその過程における課題、今後の取組方針等の報告を行った。

【審査講評・取組概要報告による波及効果(イメージ)】



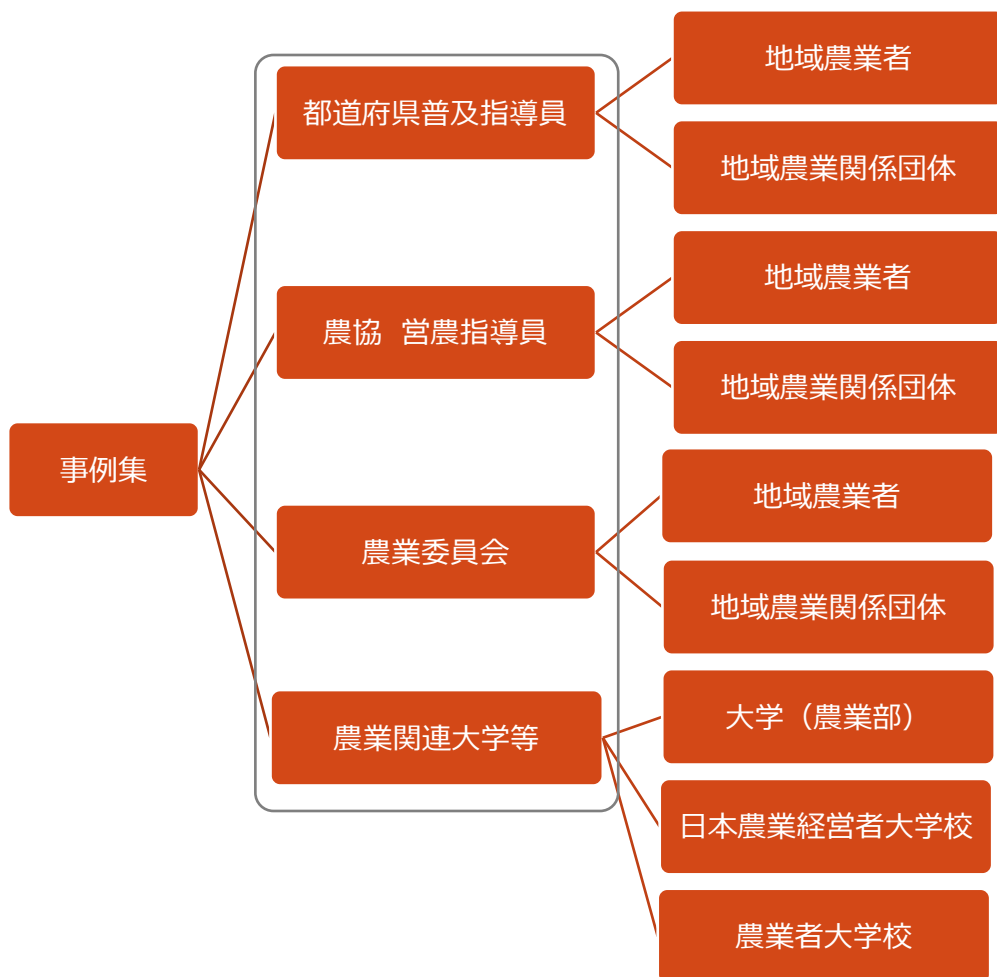
②優良経営体事例集の作成

<内容>

全国優良経営体表彰において、「経営改善」「生産技術」「6次産業化」「販売革新」の各部門の「農林水産大臣賞」「農林水産省経営局長賞」「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」を受賞した経営体の取組内容を冊子化。

都道府県普及指導員、農協営農指導員、農業委員会など地域農業の発展に尽力する職員が所属する機関に事例集を配布するとともに、農業関係大学など、今後農業に従事する学生を輩出する機関等にも配布を行い、受賞経営体の取組内容を広く普及した。

【事例集配布による波及効果（イメージ）】



③全国農業新聞への受賞事例掲載

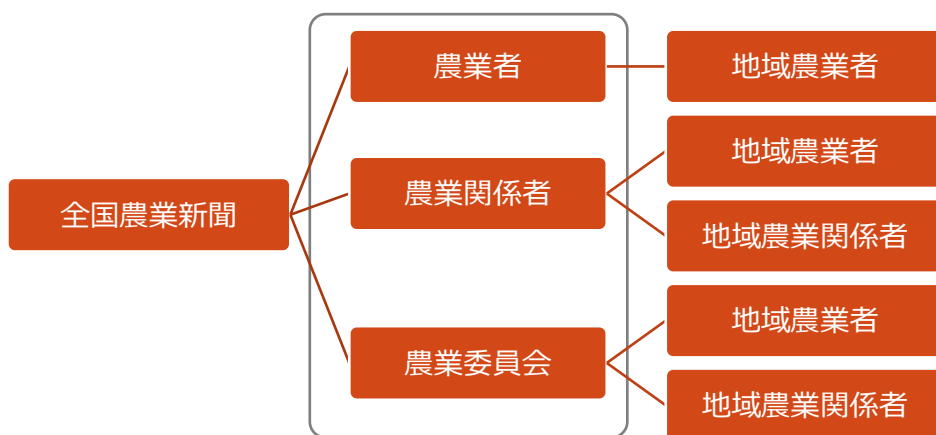
<内容>

全国優良経営体表彰の成果である優れた経営の取り組み内容について、全国農業新聞の紙面において幅広く読者に紹介した。



掲載号は、平成29年11月3日号、11月24日号、12月1日号、12月8日号、12月15日号、平成30年1月1日号、1月12日号、1月19日号、1月26日号の計9回。認定農業者infoコーナー及び経営・技術面において、受賞者の取組内容を紹介する記事を掲載した。

【事例集配布による波及効果(イメージ)】



【全国農業新聞について】

全国農業新聞は、(一社)全国農業会議所が発行する週刊の農業専門紙。市町村農業委員・農地利用最適化推進、認定農業者、農業法人、専業農家などの農業者を中心に国、都道府県、市町村の議員や職員、JAの役職員などに購読されている。

読者(農業者)の経営部門も稲作、野菜を中心に多岐にわたっており、紙面を通じた受賞者の取組内容の紹介により、幅広い層に普及することができる。

2017年度
**全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞①**

経営改善や技術革新などを評価する本年度の全国優良経営体表彰の中から、農林水産大臣賞8経営体の取り組みを紹介する。

水稲63畝、大豆34畝、特産の入善ジャンボスイカ20畝、ハウス白ネギ10畝などを経営する(株)アグリたきもととは、若い女性が代表を務める家族経営法人。借地の丁寧な管理で地域の信頼を獲得し、経営面積は法人化した2010年の45畝から計画を上回るペースで拡大し、今年は100畝を超えた。基本技術の徹底と切った設備投資で、水稲と大豆の10畝当たり収量は県平均を大きく上回る。

同社は法人化に併せ、これからは女性の時代である

**経営改善部門 富山・入善町 (株)アグリたきもと
女性経営者が100名以上に規模拡大**



こと、若いセンスを経営に生かすべきとの考えから、06年から経営に参画していた当時24歳の海道瑞穂さん(31)が代表に就任した。

法人化は将来の雇用確保や機械施設の高性能化をにらんだもの。法人化直後には突風で育苗ハウスが倒壊する被害にあったが、周辺農家などの支援で乗り切った。このことが家族の結束を強め、借地の責任ある管

地域の信頼、技術の徹底などで実現

理を痛感。土壌改良材による土づくり、圃場・畦畔の雑草管理などを徹底して地域の信頼を高め、順調な規模拡大につながった。

**県平均を上回る
収量・品質**

規模拡大に伴う経営管理では、毎年問題点の発見から次年度への対応につながるPDCA(計画・実行・評価・改善)を実施。大型

ルキークイーンを導入。猛暑対策での元肥の増肥や出穂前の葉色測定による穂肥、無人ヘリによる適期・省力防除、適切な水管理などで、基本技術を徹底すること

で、単収の増加と品質向上を実現している。水稲の10畝当たり収量(16年産)は630㍏(県平均566㍏)で、1等米比率は100%。大豆も「畝立て播種」方式で播種直後の水害を回避し、

機械への更新や乾燥調製施設を導入したが、役員報酬を抑えて経営への影響を少なくした。

品種もコシヒカリ一辺倒から大手卸の需要があるミ

「女性の時代」を切り開く海道瑞穂さん(中央)と瑞穂さんを支える父の瀬本敏さん、母のみどりさん

圃場見回りを徹底するなど15年産で260㍏(同211㍏)と技術水準が高い。外部雇用4人を含む従業員7人のうち女性が3人。ピンクを法人のシンボルカラーとし、シャワー室や男女別トイレ、女性専用休憩室、禁煙場所の確保など女性も働きやすい労働環境を整備している。

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞②

アグリード(株) (安藤重治代表、41) は、農地中間管理事業などを活用して110㌧を集積。主食用米・飼料用米・小麦・大豆・野菜の生産に加工などを組み合わせた多角経営を基幹作業員4人で実践している。これが可能なのは、品目の作期を分散させて綿密な作業計画をたて機械や作業員がフル稼働しているためだ。

48㌧の主食用米では、自社販売およびJAの播種前契約で岐阜県の主力品種「ハツシモ」をはじめ10品種を作付ける。2016年からは、ICTを導入し、圃場管理や作業情報などの生産管理方法をデータベース化した。作目や圃場ごとに目標数値を明確にし、生産にかけたコスト、収穫・

経営改善部門 岐阜・本巣市 アグリード(株)

機構など活用し集積 110㌧で多角経営



地域農業の担い手として活躍するアグリードの作業員たち (左から2人目が安藤さん)

綿密な計画、機械・作業員フル稼働

販売の成績や収益などを従業員と共有し、経営体としての意識を高めている。

また、次年度の収益を確実に確保するために欠かせないのが「実行予算書」だ。事業計画をはじめ、収入・支出を1枚のエクセルシートにまとめたもので、前職の建築業や不動産業での経験を取り入れた安藤さんのオリジナル。常に詳細な予

算管理ができ、財務強化につながっている。天候、政策など不安定要素が多いことから頻繁にデータの見直しが必要となるため、常に最新の情報を反映させ、社員一人一人が経営者と同じ視点を持って自ら考えて動き、作業の無駄をなくしている。

意見交換会や自主的勉強会では、政策や新規事業について、中長期的な視点で経営を成長させるか、関係機関と議論している。JAと連携する業務用米の複数年契約のスキーム構築に携わったり、会員の農場でGAPの外部評価を実施し、評価結果を共有するなど、改革期だからこそ仲間とともに歩み、成長することが

り組んでいる。休日制の導入や社会保険・退職金制度、年複数回ある手当の支給などを取り入れている。

同世代の担い手農家で12年に岐阜県稲作経営者会議青年部を立ち上げ、現在会長職を務める。行政、JA、農業会議などの関係機関とも連携しながら、経営者のための勉強会・研修会などを継続的に実施している。

大事だと考えている。

また、地元小中学生の田植え・稲刈り体験を指導したり、地域住民を対象とした「秋の収穫祭」を開催するなど、地域を大切にしている人は人一倍強い。

「地域を愛し、地域に愛される農業法人として誰からも必要とされる若手稲作農家のリーダーになる」と意気込みを語る。

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞③

延べ作付面積約530畝と、全国有数の規模を誇るネットワーク大津㈱（齊藤洋征代表、74）。2013年に、大津町内の13集落から12組織が再編・統合して誕生した集落営農組織だ。全集落内農家の9割を占める287戸が参加。出資は個人ではなく集落単位の「持株会」で、各持株会の代表が取締役として法人を運営している。

農地は法人に利用権が特定作業受託を設定するが、農作業は集落ごとに行う。作業が遅れるなどした場合には近隣集落が応援。それでも間に合わない場合には法人に4人いる専任オペレーター（正社員）が出動する。

生産物の販売代金と各種

経営改善部門 熊本・大津町 ネットワーク大津㈱

13集落・12組織が結集し延べ530^{ヘクタール}



社屋の前で齊藤代表

交付金は全て法人に集約。集落ごと、作物ごとにプール計算し、地代や労賃、作業委託管理費などとして構成員に配分する。収量増や品質向上を配分額に反映させる「収入差プレミアム方式」で営農意欲を高めている。配分額は年々増加し、配分率は15年度で6割。剰余金から持株会への株主配当もしており、集落で先進

効率化徹底、意欲高める仕組みも

栽培作物（17年産）は18年からの米生産数量目標配分の廃止などをにらみ、主食用米は49・9畝で飼料用米38畝、ホールクロップサイレージ（WCS）用稲75・5畝と、麦244・5畝、大豆120・5畝など。全集落を1農場としてブロックローテーションをしている。経営の安全性を高めるため長期借入資金は利用せず、毎年積み立てた農業経営基盤強化準備金で機械格納庫や管理棟などを建設。短期運転資金（無利子）の借り換えだけで運営している。機械は設立時に各集落営農から法人に集約。機械格納庫を拠点とした集中管理で機械費を県平均より3割削減した。約2千筆にのぼる圃場の管理は、地図情報で利用状況を管理する農地GISに加え、ICTを利用した総

地研修をするなど効果的に使われている。まず、毎年積み立てた農業経営基盤強化準備金で機械格納庫や管理棟などを建設。短期運転資金（無利子）の借り換えだけで運営している。機械は設立時に各集落営農から法人に集約。機械格納庫を拠点とした集中管理で機械費を県平均より3割削減した。約2千筆にのぼる圃場の管理は、地図情報で利用状況を管理する農地GISに加え、ICTを利用した総

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞④

大葉2枚、加工用シソ1・5枚などを栽培する熊本県合志市の(有)吉川農園(吉川幸人代表、62)は、ハウスをICT(情報通信技術)で管理して高い生産性を実現。国内初の自動選別システムも県内の企業と共同開発し、選別・製造ラインの合理化で作業効率の向上と大幅なコストダウンにつなげている。

吉川さんは1983年にUターン就農。スイカからキュウリに転換し92年に法人化。集約的な農業を目指して94年に大葉に転換した。量販店などとの契約出荷が増加し、単収向上と欠品を減らすため2008年からICTによる栽培環境の管理に取り組んでいる。圃場管理システムは耐候

生産技術革新部門 熊本・合志市 (有)吉川農園

ハウスのICT管理で高い生産性実現



国内初の自動選別システム開発

性の全ハウスにセンサーを設置して温度、湿度、日照量、二酸化炭素濃度、土壌水分を計測。モニターカメラも設置し、計測数値と生育状況の映像をモバイル端末などでリアルタイムで一元監視している。

16年からは土壌中のミネラルの計測と飽差指標による環境コントロールも導入。計測データを解析して最適な施肥設計や、自動給

水システムによる栽培環境を改善している。これにより年間の大葉生産量は3千枚から3200万枚へと7%増加。10ヶ当たり販売額は35%向上した。

出荷面では市場用大葉の規格外や破れ、穴あきなどをチェックする高速画像処理自動選別システムと、サイズが大きい業務用大葉の高速自動選別システムを導入。必要人員は10〜15人か

オイル、エキス、粉末、香料など食品原料の加工を始め、加工品はジュースや麺など20種類に拡大。2006年からは大葉と加工品を香港、シンガポール、米国などに輸出している。

加工・販売、輸出部門は1999年に青紫蘇農場(株)として分社化。現在、有機農産物を生産する(有)西合志特産品振興会、資機材の購入と外国人技能実習生を受

ら2人に削減でき、選別数も1時間720枚が4800枚へと6・7倍に増加した。手作業による人為的なミスもなくなった。

規格外品の有効活用とシソの高い機能性に着目し、1997年からドリンクや

吉川さん(円内)と国内初の自動選別システム

吉川さんは地域の人・農地プランでも中心的役割を果たし都市型農業の野々島菅農改善組合(組合員75人)を設立して組合長に就任。農地中間管理機構を活用して13畝を集積している。

吉川さん(円内)と国内初の自動選別システム

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞 ⑥

トマトや水菜などを2・

5畝栽培している宮城県大崎市のデリシャスファーム(株)(今野文隆代表、66)は、高糖度で栽培が難しいと言われる「デリシャストマト」(品種名「玉光デリシャス」)を1・8畝手がける。規格外品を用いた加工品開発や農場カフェ・直売所のオープンなど6次産業化に幅広く取り組む。経営全体の売り上げは2016年に1億4300万円に達した。

1981年、今野さんは地域のトマト農家とともに



今野文隆代表

6次産業化部門 宮城・大崎市 デリシャスファーム(株)

高糖度トマトを加工品、カフェにフル活用

カフェに併設されている直売所



商品開発担う女性従業員が主役

に、同種の栽培を始めた。堆肥と有機質肥料により、安定した収量を確保できる技術を確立。98年に法人化した。

ただ、糖度が増すように、かん水量を抑制しているため、生理障害で形がふぞろいになりやすく、規格品として出せるのは7割だった。そこで、規格外品を活用

するため2006年に自社の加工部門を立ち上げた。最初はジュースやジャムソース、ドライトマトだけだったが、今では30種類以上の加工品を開発している。従業員30人のうち26人、役員3人中2人は女性。商品開発は女性のアイデアを生かせるように、毎月、女性だけを集めた会議を開いている。デリシャストマトをそのまま搾った「デリシ

ヤストマト丸しぼり」はピンの形を小さくしたところ、「かわいい」と女性客から大好評。今までのトマトジュースと一線を画した。11年には農園カフェをオープン。採れたてトマトを使ったパスタやカレーなど多彩な料理が楽しめる。新メニューを次々に導入し、来客数は県内外から年間10万人。加工部門とカフェの売上高は合わせて4800万円と10年間で10倍伸びた。生産したトマトの90%以上は併設した直売所で売れるなど、相乗効果をもたらしている。

法人化してからは、地域の農業者に法人化へのアドバイスを行い、3経営体が法人化している。地元で多くの人が集まるように、収穫体験だけではなく、JA

のトマト部会で毎年「デリシャストマトまつり」を開催。毎年、約3千人が来場し、地域がにぎわう。今後はカフェを仙台市などの市街地への出店を検討している。「トマトの生産は現状を維持し、6次産業化にますます力を入れていきたい」と今野さんは意気込む。

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞⑥

京野菜の九条ネギを年間30秒と日本一の作付面積を誇ること京都(山田敏之代表、55)。加工工場を建てるなど、九条ネギのカット加工に力を入れ、販路を拡大。年間販売量は1200ト、総売上高は11億8千万円にものぼり、うち生鮮品とカット品が85・5%を占める。



自社で建設した加工工場

6次産業化部門 京都市 こと京都(株)

年間30^秒作付け 日本一の九条ネギ

山田敏之代表



1995年、アパレル企業の営業だった山田さんは、33歳の時、実家の京都に戻り、就農。当初はキャベツなど少量多品目栽培だ

独自の管理確立、商品開発にも力

だったが、京都特有の「九条ネギの産地仲間」に着目し、97年から九条ネギに特化し始めた。

年間を通して安定した量を出荷できるように、同市、

亀岡市、美山町(現南丹市)の3カ所に生産地を拡大。産地リレーによる周年栽培

に取り組んでいる。2010年から作業内容や圃場の様子を撮影して記録する

「農業工程支援システム」を導入。広大な面積でも栽培から出荷までを効率的に管理している。昨年にはA S I A G A Pを取得した。カット加工は00年から始めた。鮮度を保つために、収穫日を調整し、出荷までの日数を短縮。取引先要望にこたえるため、0・1^ミ幅単位のカットも受け付け

ている。地域でも九条ネギの生産が広がり、生産者組織「こ

とねぎ会」を設立。現在、展開するチェーン店との取引に結びついた。商品開発にも力をそ

ぐ。老舗の油店やイタリア料理店のシェフとの共同で、ネギ油やドレッシングを開発するなど、九条ネギの新しい活用方法を模索し

ている。会員30人が九条ネギを20秒600ト生産し、同社が全量を買い取っている。さらに、若者を対象に「独立支援研修生制度」を実施。九

条ネギの栽培・生産から加工・販売までを教え、独立就農を支援している。

新たな活用法模索 若者の就農支援も

販路の拡大には、足を使

ってきた。麵製造業者をはじめ、東京のラーメン店に山田さんが自ら営業。全国

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞⑦

高知市春野町の(有)見元園芸(見元一夫代表、53)は、ピオラやクロローバーなど花の育種開発と栽培を手がけている。花苗の生産量は年間150万ポット。独特の名前とキャラクターのラベルを付けた商品は、若い女性から人気があり、シーズンで18万ポットを出荷する。

直営店「トミーの庭」



販売革新部門 高知市 見元園芸

女性人気で花苗を年間150万ポット

のを選ぶ方法をとっている。花びらが細長く、ウサギの耳のように見えるピオラ「ラビットシリーズ」は希少な形から注目を浴びる。新品種には、見元さんや40人の従業員が花の形や配色を見て名前を付ける。「野うさぎミモ」や「ピंकコアラ」など個性あふれるネーミングだ。ピオラを販売する時は、品種ごと

毎年10品種生み、販売は安定

毎年10品種を新たに生みだし、これまで約80種類のピオラ、約20種類のクロローバーを育種してきた。自然交配から色や形質の良いも



見元一夫さん

きっかけに、ドイツの展示会への出展を果たした。地元に対しての営業も余念がない。九つある直売所への出荷に加え、04年には直営店「トミーの庭」をオープンした。寄せ植え教室も開催し、多いときは40人近くが参加。地元の企業として根付いている。

「他にないものを作り、売り続けていきたい」と見元さんの思いは熱く燃える。

に娘の郁実さんがデザインしたオリジナルキャラクターのラベルが付き、女性の目を引きつける。花き市場への出荷以外の販路拡大に力を入れる。関東の大手ホームセンターでは、特設コーナーが設けられている。また、高価格帯の結婚式場に営業し、引き出物の提案をしている。2009年には、海外視察を

家との契約によるもの。商品の約3分の1は北海道から九州まで国内10カ所にある契約農場で栽培を委託し、自然災害などのリスクを避けている。もともと、ピーマンやメロンを栽培していたが、J A青年部の活動を通して花に注目。自ら独立した経営をしたいとの思いを胸に、1995年から育種を始め

2017年度
全国優良経営体表彰
農林水産大臣賞⑧

全国一の茶産地である鹿児島県南九州市で、明治時代から茶園を営む(有)小磯製茶(小磯雅一代表、44)は、自社25畝の他に地区農家の70畝の作業と製茶を受託している。1975年から鹿児島市の大型量販店に直営店を出し、消費者ニーズを経営戦略に生かす中で、国内外で需要が伸びている抹茶に着目。原料「てん茶」の有機圃場を地域農家に呼びかけて団地化。専用の製茶工場も新設し、新たな販路開拓で売り上げを伸ばしている。

販売革新部門 鹿児島・南九州市 小磯製茶

直営店とWeb通販で売り上げ拡大



自社内の販売コーナーで小磯さん

有機てん茶(抹茶)を40畝団地化

帯で、収穫が始まる4月下旬には取引価格が急激に下がる。このため、早期出荷ができる平野部でも農地を集め、標高差と早生・晩生品種を組み合わせて作業期を分散。製茶工場の操業日も通常の一・五倍に伸ばしている。

有機てん茶への取り組みは、茶の国内消費が停滞する中、茶商との話し合いや

海外視察などで抹茶のニーズが海外でも高いことが分かった。高冷地で害虫が少なく新牧地区なら輸出しやすい有機栽培が可能かどうかを始めた。

2012年に自社の6畝で栽培を開始。地域の茶農家にも呼びかけ、農薬の飛散リスクを減らすために農地中間管理事業を活用して40畝を団地化し、てん茶栽培

に乾燥させてつくる。せん茶とは全く異なる設備・技術が必要なため、16年に生産者3人で「(株)藍」(小磯代表)を設立し、製茶工場を建設。地域のてん茶栽培の作業は小磯製茶が、製茶加工は藍が受託している。

抹茶への仕上げ加工は茶商が行うため、栽培は茶商との契約だ。全量残留農薬検査をして信頼を確保している。

販売面では、17年から新エロモン、整せん枝などを組み合わせた有機栽培技術体系を確立した。

てん茶は収穫の20日以上前から被覆栽培した茶葉を蒸気で蒸し、てん茶炉と呼ばれる専用設備で、もま

自社内の販売コーナーで小磯さん

おわり

工夫凝らし経営の改善・発展を

2017年度全国優良経営体表彰

10月24日、高知市で開催

された。

「2017年度全国優良経営体表彰」の表彰式が行われ、同表彰は、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績をあげた認定農業者である経営体を表彰するもの。



本年度は表彰の部門が見直され、8経営体に農林水産大臣賞が授与された

本年度から、経営改善・生産技術革新・6次産業化・販売革新の4部門で実施され、農林水産大臣賞8点、農林水産省経営局長賞10点、全国担い手育成総合支援協議会長賞16点が選考された。

経営改善部門で大臣賞を受賞したのは、富山県の棚アグリたきもと、岐阜県のアグリード㈱、熊本県のネ

ットワーク大津㈱だ。いずれも地域農業の担い手として農地を守り、効率的かつ大規模な経営を展開していることが高く評価された。

生産技術革新部門では、熊本県で大葉を生産する㈱熊本県で同賞を受賞。ICT技術を活用した栽培技術、画像処理による大葉の自動選別機を企業と共同開発したことなどが評価された。

6次産業化部門では、高糖度トマトを用いた加工品開発やカフェを運営する宮城県のデリシャスファーム㈱、九条ネギのブランド化

と積極的な加工品開発に取り組む京都府のこと京都㈱が同賞を受賞。販売革新部門では、自社で品種開発した花卉の苗を全国各地の生産者に供給・販売する高知県の㈱見元園芸と地元のプロデューサーとともに茶の有機栽培とてん茶加工に取り組む鹿児島県の㈱小磯製茶が受賞した。両経営体は輸出にも取り組んでいる。

本年度の各賞受賞者の概要は、全国農業会議所ホームページで閲覧できる。創意工夫を凝らし、経営の改善・発展に取り組む受賞者の努力の成果からは、自身の経営のみならず地域農業の発展に役立つヒントが得られるはずだ。来年度も、全国各地から優秀な経営体が数多く推薦されることを期待したい。

認定農業者



20

Info.

④全国農業経営者研究大会における 受賞者事例発表

<内容>

(一社)全国農業会議所が全国農業経営者協会、全国認定農業者協議会と共催した「第47回全国農業経営者研究大会」において、全体会では、経営改善部門の農林水産大臣賞受賞者である「株式会社アグリたきもと」の代表取締役・海道瑞穂氏による経営内容の発表を実施するとともに、分科会(米政策分科会)では、経営改善部門で農林水産大臣賞を受賞した「ネットワーク大津株式会社」の代表取締役・齋藤洋征氏による経営内容の発表を実施した。

【開催概要】

日 時:平成29年2月6日(火)13時～

場 所:AP東京八重洲通り

参加者:227名(うち全体会187名、分科会88名)



【事例発表による波及効果(イメージ)】



⑤受賞者の講師派遣・紹介

<内容>

都道府県農業会議や担い手育成総合支援協議会、認定農業者協議会、農業経営者協会など、(一社)全国農業会議所が有するネットワークを生かし、都道府県段階の各種研修会等において、平成29年度全国優良経営体表彰の受賞者を講師として派遣する取り組みを実施。また、その他の都道府県・市町村段階の関係機関・団体等が開催する各種研修会等においても、必要に応じて受賞者を講師として紹介するなど、広く受賞事例の普及に努めた。

【講師派遣実績】

開催県	研修会等名	開催年月日	講師名	参集者	参加者数
岩手県	平成29年度農業経営者セミナー	H29.12.11 ～12	(有)ハッピーヒルファーム 千葉雄大氏	認定農業者等	77名
秋田県	平成29年度農業改善支援セミナー	H30.2.20	(農)Team. Freedom 細井千代文氏	県認定農業者組織会員 市町村関係機関 団体担い手育成担当者 県再生協議会関係者等	90名
山形県	担い手の農業経営発展促進セミナー ～第21回サミットイベント～	H30.1.31	(株)アグリたきもと 海藤瑞穂氏 (株)鈴生 鈴木貴博氏 (株)奥山農産 奥山喜男氏	県内認定農業者 関係団体・機関等	230名
福島県	うつくしまふくしま農業法人協会第22回 通常総会及び農業経営改善セミナー	H29.6.23	こと京都(株) 山田敏之氏	法人協会会員 経営者組織会員 農の雇用事業実施経営体 認定農業者 県・市町村担当者等	79名
埼玉県	認定農業者等研修会	H29.11.22	こと京都(株) 山田敏之氏	県内認定農業者 法人協会会員等	70名
新潟県	新潟県認定農業者経営改善研修会	H30.3.6	(農)濁川生産組合 田村雄太郎氏 (有)農園ビギン 南雲信幸氏	認定農業者関係者	200名
富山県	富山県農業経営者研修会	H29.11.22	(株)原農園 原忠氏	認定農業者等	111名
静岡県	農地利用最適化研修会	H29.11.22	(株)鈴生 鈴木貴博氏	常設審議委員等	34名
鳥取県	県稲作経営者会議研究会	H30.1.17	(有)田中農場 田中里志氏	稲作経営者会議会員等	33名
愛媛県	平成29年度農業経営改善スキルセミナー	H30.1.31	(株)ひのいちご園 日野正一氏	認定農業者、 法人化志向農家等	30名
高知県	第19回高知県農業担い手サミットinこうち	H30.2.21 ～22	デリシャスファーム(株) 今野文隆氏	県内担い手等	79名

【事例発表による波及効果(イメージ)】



⑥全国農業会議所ホームページにおける 受賞事例の普及

＜内容＞

農地や担い手対策、新規就農に関心の高い方や日本農業技術検定に興味をもつ方など様々な方が閲覧する(一社)全国農業会議所のホームページにおいて、農林水産大臣賞受賞経営体の紹介記事を掲載した他、「平成29年度全国優良経営体表彰受賞者概要」及び「平成29年度優良経営体表彰事例集」のダウンロードデータを掲載するなど、受賞事例の普及を行った。

【ホームページ掲載による波及効果(イメージ)】



【掲載方法】



トップページにショートカットを作成し、受賞事例の取組内容等を掲載。全国農業新聞や優良経営体事例集でも当ページの案内を掲載。